



つながる

もりあがる

ひろがる

校友会グランドデザイン 2023

校友会活動基本方針

- (Ⅰ期 2023年度～2025年度)
- (Ⅱ期 2026年度～2028年度)
- (Ⅲ期 2029年度～2031年度)
- (OIDAI Alumni)

校友会を楽しもう

追手門学院大学校友会

Otemon Gakuin University Alumni Association



追手門学院大学校友会

- 【大学所在地】〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 (茨木安威キャンパス)
- 〒567-0013 大阪府茨木市太田東芝町1-1 (茨木総持寺キャンパス)
- 【事務局】〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-20 (追手門学院大阪城スクエア)

I. 策定の趣旨 — ODAI ALUMNI VISION NEXT 100 —

追手門学院大学校友会は、2021年5月29日に結成50周年を迎えました。記念事業は、2019年から、順次計画に基づき実施できうるものから行いました。不意ながら新型コロナ禍の影響で式典・祝賀会につきましては1年延期し、2022年5月28日に開催しました。

校友会の結成から50年が経過し、この『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』を策定することとなりました。趣旨は、成熟期を迎えた会として、これからの活動のために、より一層の意思統一を図り、組織の拡充・改革の指針を示すことにあります。これまでの校友会の活動実績を基に、新しい成果を蓄積し、積み上げて行く必要があります。「脱皮しない蛇は生きて行けない」と言うことわざがありますが、常に変化の先を読んで脱皮し成長して行くことが、大学を取り巻く激しい社会環境のなか、「校友会」にとりましても大事なことです。この認識のもと、校友会の課題を洗い出し、次の目標とする組織体に向けて邁進して行く為の指針としたいと考えております。

母校の追手門学院大学は、茨木総持寺キャンパスにおいて、新たにⅡ期工事の新学舎を建設中であり、2023年4月からは念願の法学部が設置され、大きく変革を進められて来ています。また、学校法人追手門学院は学院の目指すべき方向性を明確化し、イノベーションの発信拠点として地域社会、国家および国際社会に貢献する存在となるべく「長期構想2040」を策定されています。校友会も学院と共存していく団体として、その学院の目標達成に向けて歩調を合わせ、協力して取り組みをしていくために『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』を策定する時期に来ていていると考えます。

今回の『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』は、校友会結成50周年記念式典・祝賀会の開催にあわせて中間報告を作成し、公表したものをより具体化しました。

次期役員が2023年4月1日に就任します。これを次期役員及びすべての会員に公表し、共有化を図って行くものとします。

この『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』は役員の任期である3年間を一つの単位(期)とし、今回は次期役員の任期である2023年度から2025年度を第Ⅰ期として、第Ⅲ期まで(計9ヵ年)の行程を策定することを目指しています。そして、第Ⅰ期～第Ⅲ期の間に、次の第Ⅳ期～第Ⅵ期(計9ヵ年)の行程を策定して軌道修正を加えながら未来に繋げて行く方針です。

II. 策定の方法 — みらいへの創造 —

今回の『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』の策定は、現任の5名の副会長(前田順一、生川紳一郎、吉田浩幸、官浪伸次、玉井史郎)が主担当者となって起案し、各委員会の計画と執行部の考えをまとめ、常任理事会及び理事会の議を経て、評議員会に報告・意見聴取する方法を繰り返して行いました。そして、会長 藤尾政弘に上申しました。

【校友会グランドデザイン作成日程】

2022年	5月28日(土)	校友会結成50周年記念式典・祝賀会にて『校友会グランドデザイン(校友会活動基本方針)』の中間報告を行う
	7月23日(土)	理事会・評議員会にて、今後の作成日程確認「以後、各委員会で議論」
	11月10日(木)	各委員長(常任理事)は、各委員会の原稿を事務局に提出
	11月26日(土)	理事会・評議員会にて各委員長からの原稿を報告し、意見聴取
	12月20日(火)	委員長は意見等を修正したものを事務局に提出
2023年	1月16日(月)	常任理事会にて議論
	1月18日(水)	常任理事会を経た原稿を再度、理事・評議員に提示
	1月29日(日)	理事会・評議員会にて最終確認
		以後 編集作業を副会長で行い、印刷を行う
	3月31日(金)	『校友会グランドデザイン —校友会活動方針—』発行

III. 人生を楽しく豊かに導く! — 総務委員会 —

総務委員会は、校友会役員が活動をする時や校友会理事会・評議員会等会議の運営をする時に皆さんが活動しやすいように考え、実施していくことが使命である。そのために、「規程の整備」、「環境の整備」、「組織の整備」を考え、実行していく。

これまで、校友会活動は全てがボランティア活動に頼っていたが、活動を活発化するため、評議員を広く募集するために、交通費の実費支給を開始した。今後は、深く活動に携わった場合は、活動に関する有償化等の方策を検討することで、より一層の校友会(委員会)活動の継続化、活発化を図り、次の50年につなげる。

校友会の活動が、会員の皆さんの人生を楽しく豊かにするものでありたいと願っている。

【目標計画】

事業名：現行規程の体系や文言整備

- 【課題】 現行の規程は、約40種ほどあり、体系や文言などが統一されていない。今後も活動が盛んになると、それに伴い規程も増えていくので、文言には注意を要する。
- 【検討】 体系を考えたり、文言整備については、専門的な知識を必要とするので専門家(業者)に委託する。委員会としては、専門家の整備した物を確認する。
- 【実施】 誰もがわかるようなQ&Aも作成する。

事業名：議事録のホームページでの公開

- 【課題】 広く一般会員にも校友会理事会が何を決めて活動しているのかを知っていただく必要がある。特に事業計画や予算については公開し、議事録も簡潔な表現で公開する。
- 【検討】 ホームページ上で公開するための表現の工夫等をする。一般のお知らせに埋もれないようバナーの設置を検討する。
- 【実施】 ホームページ管理運営会社の作業が出来次第、運用は可能とする。

事業名：役員用グループウェアの導入

- 【課題】 理事会・評議員会等会議の開催案内、スケジュール管理、メール配信等を事務局から行っているが役員用のグループウェアを導入して、情報の共有を迅速にする。
- 【検討】 比較的扱いやすい物で、安価な物で検討をする。
- 【実施】 役員活動をスムーズにさせる。

事業名：組織整備と実働の有償化

- 【課題】 評議員は、委員会に所属することになっているが、遠隔地在住やその他の理由で委員会活動ができない評議員も存在する。委員会活動をするしないにかかわらず、同じ評議員の立場であることに疑問を抱く方や活動の不公平感等もあると思われるので、ボランティアの活動に頼らず、実働分は有償化して区別化を図っていく。
- 【検討】 委員会活動を行っているか否かにより、評議員という呼称も何らかの区別をする必要がある。
- 【実施】 規定化(明文化)をする。

事業名：法人化の検討

- 【課題】 法人格のない団体では活動に制限が出てくるため、今後の校友会の発展を考えた場合一般社団法人等への移行も検討しなければならない。その為に、調査を行う。
- 【検討】 法人格を持つことのメリット、デメリットを十分議論する。法的に財産・資産等も検討をする。
- 【実施】 会員の賛同を得る。

事業名：役員表彰制度

- 【課題】 現在の表彰規程では、おおむね在職10年以上の役員や支部長、それらに準じる職務を務めた方に対する制度が規程化されているが、1期3年、2期6年、3期9年等の任期ごとの表彰がない。
- 【検討】 人材の育成や組織の活性化を鑑み、現行の表彰規程とは別に、任期ごとに感謝状贈呈を行うことでモチベーションを高めることとしたい。
- 【実施】 準じる職位の範囲と贈呈の時期。感謝状贈呈にかかる規程(内規)の整備

【目標計画表】

進行期	【目標計画表】								
	2023	第Ⅰ期			第Ⅱ期		第Ⅲ期		
目標項目	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	現行規程整備	検討開始・予算化	整備完了						
		現状の課題確認	業者委託						
	議事録の公開	検討開始・予算化	整備完了/会議に上程						
	役員用のグループウェア	検討開始・予算化	整備完了/会議に上程						
中期目標	組織整備と実働有償化	検討開始・予算化	整備完了/会議に上程						
	財団法人化の検討	検討開始	検討終了・確認	定款施行					
長期目標		他大学調査の実施	中間報告の開催	定款・資産の確認	会議に上程				
	役員表彰制度	検討開始	規程の制定	予算の計上	整備完了・実施				

IV. 校友会へあなたの1歩を! - 財務委員会 -

校友会全体の財政シュミレーションを行うと共に、各委員会における次年度の事業計画及びその予算についての財務ヒアリングを実施する。その財務ヒアリングでは各委員会を横断的に予算のバランスを調整することで、財政基盤の強化を図る。各委員会において当該年度の活動計画及び予算執行が適切に行われたかを検証しつつ、次年度の活動計画及び予算の費用対効果を踏まえて検討をする。また、ステークホルダーから見てても予算・決算・事業について妥当性があるかについても監事会にて協議をして行く。

今後の法人化に向けて、他大学との聞き取り調査を実施し、財務面からの意見を進言することとする。校友会活動には財政的な裏付けが不可欠であると考えている。その為に財政基盤の長期に渡る安定と確立を進めて行く。

【目標計画】

事業名：財務ヒアリング

- 【課題】 2023年度予算を策定する過程で初めてヒアリングを実施した。今後は年間計画も踏まえて、タイトなスケジュールであったので開催方法について、見直す必要がある。
- 【検討】 今後、どのように精度を上げていくのか。また、効率的な方法を模索する必要がある。
- 【実施】 毎年実施して精度をあげる。

事業名：校友会の法人化について

- 【課題】 まずは法人化を進めるか否かの検討をした上で、実施するのであれば、数々の調査及び財政シュミレーションが必要となる。また、大学側の意向も確認する必要がある。
- 【検討】 法人化を進めるのであれば、準備するためのプロジェクトを立ち上げる必要がある。また、そのプロジェクトのメンバー構成はどのようにするのか、財務委員会とはどのような形で関わっていくのか。
- 【実施】 法人化を進めるのであれば、準備期間が最低でも2年程度は必要で、実際に法人化の時期を定めた上で、逆算し準備する必要がある。

事業名：財政シュミレーション

- 【課題】 財政計画基盤の強化を図る。特に、法人化を考えるのであれば重要課題である。比較的扱いやすい物で、安価な物で検討をする。
- 【検討】 校友会の長期(10年・30年・50年)にわたる資金計画(納入金と支出金)の立案を行う。
- 【実施】 費用対効果の検証や適正化について正副会長と財務委員会・監事で時間をかけて行う。

【目標計画表】

進行期 目標項目	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標									
中期目標	校友会の法人化 プロジェクト設置 実地調査	会議・会員に報告 平行して学院の意向	定款等の法的作業 資産・財産の作業	会議にて決定 (設立又は中止)					
長期目標	財政シュミレーション 年度ごとに必ず修正 法学部定員230名	年度ごとに必ず修正	年度ごとに必ず修正 理工学部構想	年度ごとに必ず修正 学生数が1万になる	年度ごとに必ず修正	年度ごとに必ず修正	年度ごとに必ず修正 会員数7万人になる	年度ごとに必ず修正	年度ごとに必ず修正

V. 地域でのOIDAIを発信 - 支部支援委員会 -

学生時代と異なり、大人になると利害関係が生じたりして、友達づくりが難しいという話を耳にしますが、「追大卒業生」というだけで、すぐに卒業生同士は打ち解け合えるものである。

全国各地の支部で顔を合わせることができるよう、大阪をはじめとする支部未設置の地域をなくし、すべての会員が支部に属する事を目標にして行く。

卒業生(校友会会員)がいきいきと活躍されることが追大ブランドの向上、母校発展にも寄与することとなるので、当委員会は、既存支部の支援や新設支部立ち上げのサポートをすることで、卒業後も「つながる」「ひろがる」「もりあがる」環境づくりに尽力して行く。

【目標計画】

事業名：支部長会の設置

- 【課題】 支部長同士の横の連携を図ることで、支部運営のノウハウについて共有したり、支部内の困り事等について気軽に相談・対応できる関係構築を行うことで、主体的に支部長が活動できるように支援する。
- 【検討】 一堂に会するのはHCD前後の支部長会を活用。普段はSNSを使用した連携を図り、徐々に自立のレイヤーを上げてゆく。
- 【実施】 ①支部長会開催(1回/年) ②SNS設置(支部長+委員会+総務委員会+広報委員会の協力) ③SNS設置(支部長+委員会) ④SNS設置(支部長のみ)

事業名：エリア担当リーダー配置(固定)

- 【課題】 支部設立の背景を知る委員の存在が既存支部の支援を行う方が意思疎通が図りやすい。新規支部設立支援担当委員を中心に委員会運営を行うことで引継ぎが行いやすくノウハウの蓄積に役立つ。
- 【検討】 委員会ではエリアリーダー1名、サブリーダー2名を配置する。委員会でのリーダーは最低2期以上継続することが望ましい。(1期3年)
- 【実施】 ①既存支部に配置する。②支部未設置ブロックに配置する。③新設支部に配置する。

事業名：就・転職相談会開催

- 【課題】 支部のつどいの参加者インセンティブとして、就職や転職の情報、ビジネスに役立つ情報を享受できると感じていることで、支部のつどいへの参加者増加、支部未設立エリアにおける会員への意識付けを行う。
- 【検討】 ニーズのあるエリア・ブロックを把握して、当面は委員会が同窓会支援委員会と連携してモデル的に開催する。構成員の多い支部や情報提供者を擁立できる支部には自主的に開催していただく。
- 【実施】 ①ニーズ調査実施(要否、エリア、他) ②就・転職相談会開催(既存支部エリア)←新たに予算計上検討 ③就・転職相談会開催(新設予定支部エリア)←支部設立準備事業の充当も検討

事業名：大阪支部立ち上げ

- 【課題】 長年懸案となってきた大阪支部を設立するにあたり、会員数が24,000名を超えており、細分化が必要だがまずは大阪府全体でひとつの支部を設立した上で、徐々に分割を進める。
- 【検討】 24,000人を束ねる世話人の選出方法、人選、つどいの開催場所、支部設立準備費(金額)の是非について要検討。大阪支部設立後は速やかに分割案(地域割、分割数、世話人、他)を検討。
- 【実施】 ①大阪支部立ち上げ検討PT設置 ②大阪支部立ち上げ準備会開催 ③大阪支部立ち上げ ④大阪支部分割検討PT設置 ⑤大阪分割支部準備会開催 ⑥大阪分割支部立ち上げ ※年度予算検討

事業名：新広域支部立ち上げ

- 【課題】 全都道府県毎の支部設立は困難だが、広域支部の設立は可能なため、エリア正副リーダーが中心となり各委員会・評議員とも連携しながらひとつでも多くの支部設立を進める。
- 【検討】 【支部未設立ブロック】①北海道(30名)・東北(43名) ②新潟(28名)・富山(107名) ③長野(53名)・山梨(8名) ※必要に応じて既存の広域支部から分割して、新たな広域支部設立も検討する。(規程では、100名以上)
- 【実施】 ①新広域支部立ち上げ検討PT設置 ②支部未設立ブロックにてつどい開催 ③新ブロック支部立ち上げ

事業名：周年支援(企画予備費)

- 【課題】 設立10・20周年を迎える支部が複数出てくるため、予算の適性化を行う。
- 【検討】 2030年には4支部が周年を迎えるため、予算上限額について検討する。
- 【実施】 ①周年支援(企画予備費)予算検討PT設置 ②周年支援(企画予備費)予算決定 ③各支部周年企画内容充実度向上

事業名：支部内多様化

- 【課題】 設立年数の長い支部では参加者の高齢化や硬直化も懸念され、新たな参加者が参加しやすい組織にするために、比較的属性の近い者同士の部会を設置する。
- 【検討】 【年齢別】青年部(35歳以下)/壮年部(65歳以下)/達人部(65歳以上) 【年齢不問】婦人部会/紳士部会/起業家部/サラリーマン部/主婦部/主夫部/(各種)趣味部
- 【実施】 青年/壮年/達人/婦人/紳士、他部会配置

【目標計画表】

進行期 目標項目	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	支部長会の設置 支部長+委員会+事務局のSNSによる交流	支部長+委員会 のみのSNS設置	支部長のみ のSNS設置						
中期目標	エリア担当リーダー 配置(固定)	既存支部に配置	支部未設置 ブロックに配置	新設支部に配置					
長期目標	就・転職相談会開催	会員ニーズ調査 (要否、エリア、他)	就・転職相談会開催 (既存支部エリアから)	就・転職相談会開催 (新設支部も)					
中期目標	大阪支部立ち上げ	大阪支部立ち上げ 検討PT設置	大阪支部立ち上げ 準備会開催	大阪支部立ち上げ	大阪支部分割 検討PT設置	大阪分割支部 準備会開催	大阪分割支部 立ち上げ		
長期目標	新ブロック支部 立ち上げ	新ブロック支部 立ち上げ検討 PT設置	支部未設立 ブロックにて つどい開催	支部未設立 ブロックにて つどい開催	支部未設立 ブロックにて つどい開催	新ブロック支部 立ち上げ準備会 開催	新ブロック支部 立ち上げ		
長期目標	各支部周年支援 (企画予備費等)	周年支援 (企画予備費等) 予算検討PT設置	周年支援 (企画予備費等) 予算決定	和歌山支部 10周年	奈良・兵庫支部 10周年		徳島・CHINA支部10周年 青年/壮年/達人/婦人部 会配置	石川支部10周年/京都 支部20周年 青年/ 壮年/達人/婦人部 会配置	愛媛10周年 青年/壮年/達人/婦人部 会配置



VI. OIDAIIに愛と誇りとみんなの夢を！－周年事業委員会－

周年事業は、校友会会員が「つながる」「ひろがる」「もりあがる」そして未来に向かって、追手門学院大学と共に強い絆を築き、進んで行く為の記念事業を実施する。

私たちは、学友と同じキャンパスで学んで、人物重視の教育を陶冶された。社会的常識・倫理観・品格を備えて社会に送り出していただき、そして、社会に貢献できる人材に育てていただいた。

この良き伝統を次の世代に繋げて行くことが必要である。その繋がりを生み育てるのが、校友会であり、その一つが記念事業の役割である。それを見据えて、適正な予算規模について議論を進めて行き、課題を解決して行く。そして、校友会だからできる！校友会しかできない！ そのような記念事業を展開する。

【目標計画】

事業名：大学創立60周年記念事業

- 【課題】 いつになれば、大学が創立60周年事業内容を確定するのか。また、それから校友会支援体制を作り上げる。
- 【検討】 校友会として、何処まで関わる事が出来るのか。どのようにすることが大学にとって良いのか。模索して行く。
- 【実施】 校友会に資金的協力などを大学から、何時求められて来るのか。校友会としての協力体制と実行体制の整備をして行く。

事業名：総持寺キャンパスII期工事

- 【課題】 2025年の工事完成時の施設・設備等の状況把握。
- 【検討】 校友会として、どのような形が協力して出来るか。また、大学が何をもとめているのか。
- 【実施】 従来は、新学舎建設時等の協力する場合は、校友会としては「形」として残るものを贈呈して来た。そのようなことで良いのかを踏まえて実施する。

事業名：大学創立60周年の校友会事業

- 【課題】 校友会事業と大学主催の60周年事業との兼ね合い。実施次期・事業内容の調整。
- 【検討】 校友会として、会員を繋ぐ有効な独自の記念事業を考える。
- 【実施】 校友会にとって、また、大学にとっても有意義な事業を協力して実施する。

事業名：学院創立140周年記念事業

- 【課題】 いつになれば、学院が創立140周年事業内容を確定するのか。また、校友会として対応出来るものなのか。
- 【検討】 校友会として、どこまで関わる事が出来るのか。どのようにすることが学院にとって良いのか。
- 【実施】 校友会にどのような協力を学院から、何時求められて来るのか。校友会としての協力体制の準備と整備をしておく。

事業名：校友会結成60周年記念事業

- 【課題】 校友会結成60周年記念事業を実施するのか、否かを考える。
- 【検討】 実施するのであれば、事業と予算規模を確定する必要がある。
- 【実施】 結成50周年記念事業の実績を継承することと、次に繋げるためのものにする。

【目標計画表】

進行期	第Ⅰ期			第Ⅱ期		第Ⅲ期			
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	大学創立60周年資金計画	大学と協議 積立(100万円)	予算確定 積立(100万円)	事業開始 2017年より積立、総額1000万円	本番事業				
	総持寺キャンパスII期工事資金計画	大学と協議 積立(300万円)	予算確定 積立(300万円)	工事完成(3月) 総額900万円					
	大学創立60周年校友会事業資金計画	計画立案 積立(200万円)	予算確定 積立(200万円)	事業開始 2023年より積立総額800万円	本番事業				
中期目標	学院創立140周年資金計画	積立(100万円)	積立(100万円)	学院と協議 積立(100万円)	予算確定 積立(100万円)	事業開始 2019年より積立、総額1000万円			
	校友会結成60周年資金計画	積立(100万円)	積立(100万円)	積立(100万円)	積立(100万円)	計画立案(実施の場合) 積立(100万円)	予算確定 積立(100万円)	事業開始 積立(100万円)	前年事業 積立(100万円)
長期目標	法学部設置		II期工事竣工 理工学部構想		大学創立60周年	学院創立140周年	校友会結成60周年		

VII. 伝えたい WAKU WAKU、DOKI DOKI －広報委員会－

広報委員会では、ブランディングを推進・確立し、メディアリレーションズを築くと共に、会員・ステークホルダーとの広報を通じて関係性を構築する。広報の大原則に立つと共に、会員にとって最も身近な委員会として、(1)会報の紙面刷新化・電子化を検討する。(2)ホームページ、Facebook、LINE等のSNS活用方法を検討する。(3)広く大学の「知」を知らしめるPR活動をする。校友会結成60周年に向け、これらを推進するため、大学等と連携を強化しつつ、若手会員の取り込みも念頭に、会員との双方向コミュニケーションを構築する。

【目標計画】

事業名：『校友会会報』の発行に関して

- 【課題】 会報の紙面刷新化・電子化を検討する。
- 【検討】 読者の需要を意識した内容(会員近況報告の投書欄、会員訃報ページの新設)を検討することで、従来の単方向から、双方向コミュニケーションが可能なツールへとシフトする。
- 【実施】 電子化への流れが加速する中、コスト削減に向けた電子化への完全移行ありきではなく、他大学同窓会団体の動きも見据えながら、紙媒体を希望する会員にも配慮して実施する。

事業名：SNSの活用に関して

- 【課題】 SNSの活用を含めたWEB施策を定期的に検討する会議体を委員会内に置き、現状の課題を検討する。具体的には、現在のホームページや、WEB施策に関するアンケートを取って、ホームページ上の離脱ポイントを把握し、その理由を上記会議体にて検討する。
- 【検討】 SNSの活用を含めたWEB施策を定期的に検討する会議体を委員会内に置き、現状の課題を検討する。具体的には、現在のホームページや、WEB施策に関するアンケートを取って、ホームページ上の離脱ポイントを把握し、その理由を上記会議体にて検討する。
- 【実施】 他大学同窓会団体の施策を調査研究した上で、SNS上の友達増加策を実施することにより、会報で繋がるであろう60歳以上の会員に対し、SNSを駆使することによって、60歳以下の会員とも何らかのツールでコミュニケーションが取れる体制を構築する。

事業名：PR活動の強化に関して

- 【課題】 広く大学の「知」を知らしめるPR活動をする。
- 【検討】 広報委員がそれぞれの得意分野(紙媒体・SNS)を通して他大学同窓会団体の取り組み事例について調査し、それらを持ち寄り検討することで、時流に合ったPRを展開する。
- 【実施】 PR活動の強化にあたっては、学校法人追手門学院(特に、校友課を介して広報課)のみならず、教育振興会の正会員、賛助団体とも積極的に連携しつつ、PR活動を実施する。

【目標計画表】

進行期	第Ⅰ期			第Ⅱ期		第Ⅲ期			
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	(『校友会会報』の発行に関して) 会報の紙面刷新化・電子化を検討する。	読者の需要を意識した内容(会員近況報告の投書欄や、会員訃報ページの新設)を検討することにより、従来の単方向から、双方向コミュニケーションが可能なツールへとシフトチェンジする(三か年計画の短期目標)。							
	(SNSの活用に関して) ホームページ、Facebook、LINE等のSNS活用方法を検討する。	SNS活用を含めたWEB施策を定期的に検討する会議体を委員会内に置く(取次課題の対応)	現ホームページ・WEB施策に関するアンケートを実施(ホームページの離脱ポイント把握)	前年度に実施したアンケートを基に見直しホームページや今までのWEB施策を大幅に刷新する					
	(PR活動の強化に関して) 広く大学の「知」を知らしめるPR活動をする。	広報委員がそれぞれの得意分野(紙媒体・SNS)を通して他大学同窓会団体の取り組みについて各自で調査し、それらを持ち寄り委員会にて検討することにより、最適なPR方法を協議する(三か年計画の短期目標)。							
中期目標	(『校友会会報』の発行に関して) 会報の紙面刷新化・電子化を検討する。	電子化への流れが加速する中、コスト削減に向けた電子化への完全移行ありきではなく、他大学における同窓会団体の動向も踏まえて、会員向けに紙媒体か電子媒体かのアンケートを実施する(三か年計画の中期目標)。							
	(SNSの活用に関して) ホームページ、Facebook、LINE等のSNS活用方法を検討する。	S他大学同窓会団体をベンチマークの対象として、導入可能な施策を調査研究(隔年訪問)	調査研究を基にSNS(Facebook・LINE・Twitter・Instagram)上の友達増加策を検討	調査研究を基にSNS(Facebook・LINE・Twitter・Instagram)上の友達増加策を実施					
長期目標	(PR活動の強化に関して) 広く大学の「知」を知らしめるPR活動をする。	広く大学の「知」を知らしめるPRを行うには、学校法人追手門学院との連携が必要不可欠であるため、常に校友課を介して広報課との連携を密にするとともに、広報課との連携会議を開催する(三か年計画の中期目標)。							
	(『校友会会報』の発行に関して) 会報の紙面刷新化・電子化を検討する。	①会員向けアンケートの結果、電子媒体化を求める声が圧倒的だった場合には、速やかに電子化への完全移行を目指す。 ②紙媒体を求める声が一足数あった場合には、委員会内で議論を重ねる(三か年計画の長期目標)。							
長期目標	(SNSの活用に関して) ホームページ、Facebook、LINE等のSNS活用方法を検討する。	60歳以下のすべての会員と何らかのツールでコミュニケーションを取る体制を構築・着手	60歳以下のすべての会員と何らかのツールでコミュニケーションを取る体制を構築・推進	60歳以下のすべての会員と何らかのツールでコミュニケーションを取る体制を構築・推進					
	(PR活動の強化に関して) 広く大学の「知」を知らしめるPR活動をする。	大学全入時代から5年を経過する第Ⅲ期は、追手門学院を挙げてのPR活動が必須となることから、教育振興会内組織の正会員5団体と賛助団体3団体の連携強化により、迅速なPR活動を展開する(三か年計画の長期目標)。							

VIII.あなたのアイデアを実現させましょう！－企画事業委員会－

企画事業委員会は、校友会会員が「つながる」「ひろがる」「もりあがる」をモットーに会員相互の親睦並びに、校友会の活性化をはかり、各種行事を通じて「つながる」企画を実施開催して行く。

学生とのボランティア活動を行い、学生会員の校友会の認知度の周知を目指す。

学生会員とを結ぶ各種記念品(卒業アルバム・入学記念品)、並びに行事の企画内容を充実させる。新規イベント企画開催すること会員のみなさまに喜んで頂き、正会員相互の親睦をはかる中で、校友会の活性化に繋げる。

【目標計画】

事業名：入学記念品

- 【課題】 大学や教育後援会より協賛記念品への協力依頼をする。
- 【検討】 大学・教育後援会との協議に参加する必要がある。
- 【実施】 現状入学記念品の単価は2000円/人であるが、教育後援会の単価の方が安いと聞いている。校友会の金額や学生認知に不利な場合は参加を見送り、従前どおり校友会単独で行う。

事業名：卒業記念品

- 【課題】 メディアの進歩による、配布媒体の変化がある。
- 【検討】 卒業アルバム媒体は、1期生より冊子 → 2019年度からDVD → 2022年度から冊子へと戻す。今後、アルバム媒体のクラウド化がある。
- 【実施】 メディアの進歩による媒体の変化が進む。媒体の陳腐化がおり、追いつけなければならない。当面は冊子のままでの実施が望ましい。

事業名：地域清掃活動

- 【課題】 コロナ禍による、学生との共同作業の地域清掃活動が中止となる。コロナ禍による、学生も不参加になり、継承が出来ていない。
- 【検討】 コロナ禍前の地域清掃活動に戻す。
- 【実施】 コロナの流行は夏と冬が顕著なので、5～6月、9月のオープンキャンパスにての開催が望ましい。

事業名：校友会ゴルフコンペ

- 【課題】 コロナ禍による、活動の中止
コンペ参加者の増加
- 【検討】 校友会のゴルフ同好会などを設立し、コンペ以外にも気軽に校友会会員同士で気軽にゴルフ参加出来るようにする。
- 【実施】 校友会のゴルフ同好会設立のため、校友会会員同士のゴルフの場合は2000円/人の活動支援金を行う。

事業名：大阪・関西万博ボランティア活動支援

- 【課題】 現状、大学が大阪・関西万博に学生ボランティアとして参加を行うのかが不明。
- 【検討】 大阪・関西万博に学生ボランティアとして参加のために、大学との協議を行う必要がある。
- 【実施】 大学が万博に学生ボランティア参加の方向であるなら、大学と協議し、校友会として支援を行う。

事業名：新規イベント企画

- 【課題】 現状の委員会の人数ではこれ以上の新規企画の立上げは難しいので、委員の拡大が必要。
- 【検討】 会員の家族や若手会員が参加しやすい企画を検討する。
- 【実施】 委員会のキャパを考慮し、随時企画立案実行を行う。

【目標計画表】

進行期	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	新規イベントの企画(家族参加型・若手参加型)	新企画を検討	予算化	実施					
中期目標	諸事業の見直し計画(スクラップアンドビル)	委員会での議論	出来るものから実施	出来るものから実施					
長期目標	大阪・関西万博ボランティア活動支援	大学と協議	参加学生募集 予算化	開催参加					

IX.たのもし先輩とネットワーク－学生支援委員会－

学生の支援活動を通じて、充実した学生生活を送ってもらう。そのことで、卒業後には母校への支援の協力を得る。その為に、クラブ活動・学生会活動の支援、及び大学祭等の援助を通じて交流をはかる。

学生生活が送れる一助となる役割を担うことを目指す。また、留学生との交流をはかり、支部とも連携しながら卒業生に触れる機会を設け、校友会活動にも関心を持ってもらう。

卒業する学生を対象に、卒業式前に卒業前夜祭と称して、校友会の正会員としての認識を持ってもらうために開催をする。

【目標計画】

事業名：新入生歓迎会(学生会員歓迎会)

- 【課題】 学生県人会も併設して開催。支部支援委員会との連携。
- 【検討】 大学主催行事の入学式・オリエンテーション等の学内行事との絡み。
- 【実施】 大学内の協力体制を作る。

事業名：仮称 学生校友会の設立(校友会学生委員会)

- 【課題】 現役学生たちとの距離がある。接点が少ないため、実態把握できていない。現役学生たちとの距離がある。接点が少ないため、実態把握できていない。
- 【検討】 継続的な組織化が必要。学生が携わる校友会活動の位置づけを明確にし、事故、トラブルの際の補償も制度整備をする。
- 【実施】 学生との打ち合わせを繰り返す。大学側との協議の上、現役学生時代から校友会活動に参画してもらい、将来の役員候補生を育成する。

事業名：卒業前夜祭(正会員歓迎会)

- 【課題】 学生が集まるか、それが同期会への発足へ導くことが出来るのか。大学は卒業するが、正会員としての仲間入りへの歓迎会の開催。
- 【検討】 開催時期・場所の設定
同窓会支援委員会の卒業10年後の同窓会に繋げる。
- 【実施】 参加者数の確認が必要、正会員としての意識の醸成の場とする。
同窓会支援委員会・支部支援委員会との連携

事業名：コロナ禍による卒業式が挙行出来ない年度の実施

- 【課題】 卒業式が出来ていない年の卒業後の学生が集まるか。月日が経過しすぎている。
- 【検討】 開催時期・場所の設定
- 【実施】 参加者の確認が必要

事業名：先輩によるキャリア教育授業協力

- 【課題】 進路に悩む学生たちに先輩の話を聞くことで、社会について学ぶ。大学との打ち合わせと調整が必要
- 【検討】 いろいろな職種、業種別に報告者を選定、報告テーマについて検討
ビジネス交流会の参加者との協力体制
- 【実施】 大学側と日程、場所、時間調整、告知方法などを決める。

【目標計画表】

進行期	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	新入生歓迎会の開催(新学生会員歓迎会)	大学と協議 校友会と協議	歓迎会の開催(学生県人会)						
中期目標	卒業式が挙行出来ない年の実施	大学と協議 校友会と協議	卒業式の開催						
長期目標	仮称 学生校友会の設立(校友会学生委員会)	大学と協議 校友会と協議	準備委員会の設置 校友会と協議	学生校友会の設立					
	卒業前夜祭開催(新正会員歓迎会)	大学と協議 校友会と協議	学生実行委員会の設置(役員に繋げる)	前夜祭の開催					

X.OIDAIへおかえりなさい！ーホームカミングデー実行委員会(HCD)ー

卒業生やその家族、教職員OB等を大学に招いて歓待するイベントを開催。

卒業生の動向把握、交流促進や大学からの情報の発信などにより、卒業生との関係強化をはかることを目的とする。

また、教員や現役生をしっかりと巻き込み、企業に勤める卒業生との交流の場を設け、ビジネスチャンスの拡大につながる仕組み等ができればとも考える。

様々な場づくりを通して、大学や卒業生のネットワークを構築を目指す。

【目標計画】

事業名：ホームカミングデー

- 【課題】 校友会の活動を周知、主催イベント(校友大会・大会懇親会)の参加者を増やす。支部物産販売・卒業10年・20年・30年・還暦・古希同窓会との連携をする。
- 【検討】 周知手段を考慮、幅広い年代層に参加をどの様に広めていくか。イベントの企画内容も検討。
- 【実施】 SNSのツールを利用。活動報告等を発信する。

【目標計画表】

進行期	目標項目	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	参加者数を増やす	SNS活用を検討	SNS活用方法	SNS活用して実施						
	現役生共同催事	共同開催の参加方法の検討	共同開催の有効	共同開催開催の実施						
中期目標	周知活動				SNS活用の再検討(過去の方法を基に)	SNS活用の有効性	SNS活用を実施			
	現役生共同催事				共同開催の参加方法の再検討(過去の方法を基に)	共同開催の有効性	共同開催開催の実施			
長期目標	周知活動							SNS活用の再検討(過去の方法を基に)	SNS活用の有効性	SNS活用を実施
	現役生共同催事							共同開催の参加方法の再検討(過去の方法を基に)	共同開催の有効性	共同開催開催の実施

XI.行こうよ、集おうよ、同窓会ー同窓会支援委員会ー

校友会のキャッチコピーである、「つながる、ひろがる、もりあがる」の中で「つながる」の仕掛けをする一番大切な委員会が同窓会支援委員会である。そんな中、卒業生において、校友会の活動が周知されているとは言えず、「校友会とは何?」と思われる方も多く、より関心を持ってもらい、関わってもらえるようにしなければならない。まずは卒業生同士の小規模コミュニティを作り、徐々に拡大していく機会を作ることが必要である。定期的なイベントを開催し、交流の場を提供することが重要だと考えている。また「校友会に参加する若手卒業生が少ない」という問題も解決して行く。

「校友会=年配者が多い」というイメージ「参加するメリットがない」などの理由があるが、逆に言えば20~30代の卒業生を対象としたイベントの開催や、業界・職種を問わず幅広い分野で活躍する若手卒業生の仕事をマッチングさせるなどで、興味を持ってもらうことは可能である。

同窓会支援委員会は「卒業しても追大は面白い!」をコンセプトに校友会のコミュニティである「つながる」を活性化して行く。

【目標計画】

事業名：卒業10年、20年、30年、還暦、古希同窓会

- 【課題】 卒業生数に対しての参加人数が少ない。また同窓会開催後の繋がりが出来ていない。
- 【検討】 同窓会の時だけでなく、その後も卒業生が集える様々な機会を作っていく。LINEでの連絡活用。卒業10年、20年、30年、還暦、古希同窓会を校友大会への集客に繋げていく。
- 【実施】 ホームカミングデー当日に校舎内で各同窓会を開催する。定期的に交流会を開催する。それぞれの同窓会開催時に10年後の幹事を決める。

事業名：ゼミ同窓会

- 【課題】 卒業後にゼミ同級生・OBが集まるような機会が少ない。ゼミ担当教員の方々にも積極的に協力していただく必要がある。
- 【検討】 現役ゼミ生の活動を知る機会が作れないか。単にゼミ同窓生が集まるのではなく、現役ゼミ生との関わりを作ることが必要ではないか。
- 【実施】 同窓会助成金を活用して、ゼミ生の集まる機会を増やしてもらう。現役ゼミ生の交流を通して、今後の同窓会立上げに協力してもらう。

事業名：各クラブOB・OG会の結成支援

- 【課題】 コロナ禍もあるが、体育・文化OBOG連合会が活動出来ていない。現役のクラブ活動状況をOBOGに周知する必要がある。
- 【検討】 校友会が関与し、体育・文化OBOG連合会を活性化させるためには、現在のクラブとどのような連携ができ、卒業生・現役生に、どのようなメリットがあるのか整理する必要。(連合会活動支援金・クラブ活動助成金など)
- 【実施】 OBOG会支援金を活用して、集まる機会を増やす。校友会がホームカミングデー当日にOBOG会が開催できるよう支援をする。

事業名：卒業生ビジネス交流会「LINKAの集い」

- 【課題】 様々なビジネスに携わっている卒業生を継続的に掌握する。帰属意識を高め合い、大学のブランド力向上に貢献する。
- 【検討】 交流会参加者名簿を整備し、継続的にビジネス交流会が開催できるようにする。卒業生同士のビジネスチャンスを創出することが必要。学生の参加を検討する。
- 【実施】 年1回のビジネス交流会をマンネリ化することなく拡充させながら開催する。ビジネスに関わる話をしていただける講師やOBゲストを招く。

事業名：次世代交流会「U-30」

- 【課題】 校友会活動に参加する若手卒業生を増やすことが急務である。
- 【検討】 校友会活動は年配者ばかりというイメージの払拭が必要。若手卒業生同士が話す機会をつくる。
- 【実施】 若手卒業生だけのカジュアルなイベントを開催する。若手校友会評議員を増やす。

【目標計画表】

進行期	目標項目	第Ⅰ期			第Ⅱ期			第Ⅲ期		
		2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
短期目標	ビジネス交流会	学生の参加を検討	学生参加を実施							
	30歳同窓会	HCDにて開催 10年後同窓会の幹事を選出	HCDにて開催	2年間の参加状況 精査の上再検討						
	40歳同窓会	HCDにて開催 10年後同窓会の幹事を選出	HCDにて開催	2年間の参加状況 精査の上再検討						
	50歳同窓会	HCDにて開催 10年後還暦同窓会の幹事を選出	HCDにて開催	2年間の参加状況 精査の上再検討						
	クラブOB・OG会	OBOG連合会 開催	設立支援金予算化	設立支援	OBOG連合会活動支援金(各クラブ活動助成金など)					
中期目標	還暦同窓会(60歳)	HCDにて開催 10年後の古希同窓会幹事を選出			今後の還暦同窓 会あり方再検討					
	古希同窓会(70歳)	HCDにて開催			今後の古希同窓 会あり方再検討					
長期目標	ゼミ同窓会	委員会にて検討 ゼミ教授との協議	委員会にて検討 現役ゼミ生交流	委員会にて検討 ゼミOBとの交流	3年間のゼミ教授との連携やゼミ生交流を土台に準備が整ったゼミごとに同窓会を立ち上げる	全ゼミの同窓会の 組織化を促す	ゼミ同窓会連合会 を結成			